

タイトル「**2023年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1161		
科目名	教養特殊講義 1		
担当教員	村田 毅		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 4		
講義室	1306	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-D〔市民的素養・市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。</p> <p>DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連</p> <p>C1 倫理的思考・社会認識 (30%)</p> <p>D1 市民的素養と参加 (30%)</p> <p>I1 理解・分析と読解 (20%)</p> <p>I2 量的分析 (10%)</p> <p>I3 情報分析 (10%)</p>		
教員の実務経験	<p>■ 保険商品の開発・引受や保険法制の実務に加え、リスク評価と定量化、統合リスク管理、保険プールの運営などに携わってきました。これらの実務経験・知識をもとに損害保険の理論的・技術的な基礎を具体的な商品や事例に基づいて理解できるよう講義を行います。(第9,12,13回)</p> <p>■ 実際の事故や災害、統計数値を参照するとともに、巨大リスクや困難なリスクを処理する再保険やプールなどの制度・仕組みを示し、損害保険がどのように成り立っているのか興味を持ち、リスクと保険について踏み込んで考えられるよう、具体的な材料を提示します。(第10,11,14回)</p>		
成績ターゲット区分	<p>■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応</p> <p>2 進期期～ 3 発展期</p>		
科目概要・キーワード	<p>■ 企業も家計も事故や災害、事業や投資の失敗、サイバー犯罪など、様々なリスクにさらされ、その管理と処理を課題としてかかえている。損害保険は、多様なリスクに対応して様々な商品があり、企業や家計のリスクマネジメントのツールとして重要な役割を果たしている。本科目では、リスクの概念や分類、損害保険の内容と損害保険を支える仕組み(技術的基礎)を具体的に学んだうえ、それらを活用してリスクマネジメントの課題を自ら考え、解決する力を養う。</p> <p>■ 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき、効果的な授業方法として、または、各授業を補完・代替するために、オンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p>		

	<p>■キーワード：損害保険を成り立たせている仕組み（技術的基礎）、リスクの概念・分類とその処理、リスクマネジメント</p>						
授業の趣旨	<p>■副題：損害保険の仕組みを学んで、リスクへの対応・処理、リスクマネジメントの考え方を身に付けよう</p> <p>■授業の目的：リスクと損害保険の基礎的な概念・知識の習得を基に、損害保険におけるリスクの引受け、処理の仕組みを知り、リスクに対応した問題解決の着想と思考ツールを獲得する。</p> <p>■授業のポイント：事故や災害とそれらのリスクに対する損害保険の実際の対応をできる限り取り上げ、リスクに関する問題解決の仕組みを具体的に示すことで、授業の目的達成を目指す。</p>						
総合到達目標	<p>■以下の知識・理解を活用して、リスクマネジメントにかかわる問題を自ら考える姿勢を身に付け、リスクにかかわる問題解決力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクの概念と分類について説明できる。（第1,2回） ・企業や個人の抱えるリスクについて具体的にイメージできる。（第3回） ・それぞれのリスクに対応する損害保険商品が何であり、その基本的な内容がどのようなものか、概要を把握している。（第5～9回） ・損害保険を成り立たせている統計・数理などの技術的な基礎や再保険、プーリングなどの基本的な仕組みを説明できる。（第3,4回、第10～14回） 						
成績評価方法	<p>■成績評価手段。</p> <p>小テスト5回（うち1回は事前提出課題）（70%） （評価の観点）授業内容をどの程度理解できたか。 （フィードバック方法）授業時間内に課題趣旨、解答などを説明する。</p> <p>レポート1回（30%） （評価の観点）授業の内容を踏まえて論理立ててわかりやすく自分の考えを示せるか。 （フィードバック方法）ポータルサイトを使って講評する。</p> <p>■(適用ルーブリック-</p> <p>小テスト C1、D1（各15%）、I1（20%）、I2、I3（各10%） レポート C1、D1（各15%）</p>						
履修条件							
履修上の注意点							
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>①授業テーマ： 自己紹介、ガイダンス、損害保険とはどのようなものか</p> <p>②授業概要： 授業の目的と15回の流れについて説明します。そのうえで、損害保険とはどのようなものかを考える導入として、様々なリスク事象(限界事例)を取り上げ、これらを補償する契約が損害保険として成立するのか、○×を付ける事前アンケート結果を紹介します。第1回では、これらをもとに、損害保険の概括的なイメージを示し、第2回以降、講師の実務経験に基づいて、実務と理論の両面から紐解いていきます。</p> <p>なお、目標として、15回の授業終了時において、理解・説明できるようになってほしい課題（論点）をいくつか例示します。</p> <p>③予習(120分)： 事前に掲示する「損害保険か？」の問いに対し、○×をつけて提出する。自分なりの理由・根拠を考えておく。</p> <p>④復習(120分)： シラバスを再確認し進め方を把握する。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>①授業テーマ： リスクの定義と分類、損害保険の対応</p> <p>②授業概要： 企業(事業体)、家計(生活者)双方について、現ににさらされている重要なリスク（損害保険の対象かどうかは問わない）を洗い出す。企業のリスクについては、企業の開示資料を参照するなどして情報を補完する（下記予習の課題参照）(I3)。洗い出されたリスクをもとに、一般的なリスクの定義・分類を提示（投機リスクと純粋リスク）し、それに対する企業と家計の対応（損害保険の利用を含むがそれに限らない）を解説します。</p> <p>リスクの定義と分類を踏まえ、損害保険はどのようなリスクをどこまでカバーし得るのかについて原則的な整理を理解し説明できる(I1, I3)。</p> <p>③予習(120分)： 企業のリスクについては、EDINETで任意の企業1社の有価証券報告書を閲覧し、第一部 企業情報－第2 事業の状況－2 事業等のリスクを参照する。家計については、自らの経験と想像力を活用する。</p> <p>④復習(120分)： リスクの定義と分類についての理解を整理、確認する。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ： 自己紹介、ガイダンス、損害保険とはどのようなものか</p> <p>②授業概要： 授業の目的と15回の流れについて説明します。そのうえで、損害保険とはどのようなものかを考える導入として、様々なリスク事象(限界事例)を取り上げ、これらを補償する契約が損害保険として成立するのか、○×を付ける事前アンケート結果を紹介します。第1回では、これらをもとに、損害保険の概括的なイメージを示し、第2回以降、講師の実務経験に基づいて、実務と理論の両面から紐解いていきます。</p> <p>なお、目標として、15回の授業終了時において、理解・説明できるようになってほしい課題（論点）をいくつか例示します。</p> <p>③予習(120分)： 事前に掲示する「損害保険か？」の問いに対し、○×をつけて提出する。自分なりの理由・根拠を考えておく。</p> <p>④復習(120分)： シラバスを再確認し進め方を把握する。</p>	2	<p>①授業テーマ： リスクの定義と分類、損害保険の対応</p> <p>②授業概要： 企業(事業体)、家計(生活者)双方について、現ににさらされている重要なリスク（損害保険の対象かどうかは問わない）を洗い出す。企業のリスクについては、企業の開示資料を参照するなどして情報を補完する（下記予習の課題参照）(I3)。洗い出されたリスクをもとに、一般的なリスクの定義・分類を提示（投機リスクと純粋リスク）し、それに対する企業と家計の対応（損害保険の利用を含むがそれに限らない）を解説します。</p> <p>リスクの定義と分類を踏まえ、損害保険はどのようなリスクをどこまでカバーし得るのかについて原則的な整理を理解し説明できる(I1, I3)。</p> <p>③予習(120分)： 企業のリスクについては、EDINETで任意の企業1社の有価証券報告書を閲覧し、第一部 企業情報－第2 事業の状況－2 事業等のリスクを参照する。家計については、自らの経験と想像力を活用する。</p> <p>④復習(120分)： リスクの定義と分類についての理解を整理、確認する。</p>
回	内容						
1	<p>①授業テーマ： 自己紹介、ガイダンス、損害保険とはどのようなものか</p> <p>②授業概要： 授業の目的と15回の流れについて説明します。そのうえで、損害保険とはどのようなものかを考える導入として、様々なリスク事象(限界事例)を取り上げ、これらを補償する契約が損害保険として成立するのか、○×を付ける事前アンケート結果を紹介します。第1回では、これらをもとに、損害保険の概括的なイメージを示し、第2回以降、講師の実務経験に基づいて、実務と理論の両面から紐解いていきます。</p> <p>なお、目標として、15回の授業終了時において、理解・説明できるようになってほしい課題（論点）をいくつか例示します。</p> <p>③予習(120分)： 事前に掲示する「損害保険か？」の問いに対し、○×をつけて提出する。自分なりの理由・根拠を考えておく。</p> <p>④復習(120分)： シラバスを再確認し進め方を把握する。</p>						
2	<p>①授業テーマ： リスクの定義と分類、損害保険の対応</p> <p>②授業概要： 企業(事業体)、家計(生活者)双方について、現ににさらされている重要なリスク（損害保険の対象かどうかは問わない）を洗い出す。企業のリスクについては、企業の開示資料を参照するなどして情報を補完する（下記予習の課題参照）(I3)。洗い出されたリスクをもとに、一般的なリスクの定義・分類を提示（投機リスクと純粋リスク）し、それに対する企業と家計の対応（損害保険の利用を含むがそれに限らない）を解説します。</p> <p>リスクの定義と分類を踏まえ、損害保険はどのようなリスクをどこまでカバーし得るのかについて原則的な整理を理解し説明できる(I1, I3)。</p> <p>③予習(120分)： 企業のリスクについては、EDINETで任意の企業1社の有価証券報告書を閲覧し、第一部 企業情報－第2 事業の状況－2 事業等のリスクを参照する。家計については、自らの経験と想像力を活用する。</p> <p>④復習(120分)： リスクの定義と分類についての理解を整理、確認する。</p>						

3	<p>①授業テーマ： 損害保険の誕生と発展、変遷</p> <p>②授業概要： 前回までにリスクの定義や損害保険のイメージを学んだところで、具体的な理論や商品・実務に入る前に、損害保険の誕生に遡ってみる。揺籃期の（原始的な）仕組みを知り先人の叡智に触れることで、保険の本質への関心と思索を深める(C1, D1)。</p> <p>具体的な材料としては、冒険貸借、ロイズの発祥、我が国の海上請負、抛銀（なげがね）、ロンドン大火と火災保険の発祥などがあり、これらの仕組みを解説します。</p> <p>③予習(120分)： ベニスの商人、ロンドン大火について、あらすじ、概要を知っておく（参照資料は事前に示す）</p> <p>④復習(120分)： 興味をひかれたかつての仕組みについて掘り下げる。</p>
4	<p>①授業テーマ： 損害保険の原理と技術的基礎</p> <p>②授業概要： 損害保険を成り立たせている原理と技術的基礎をわかりやすく解説します。冒頭で、事前提出してもらった「オチ」をパターン別にいくつか紹介し読み上げます。作成者は、指名された場合、そのようなオチに至った理由を説明する。この小話にどうオチを付けるかは、保険の射幸契約性と技術的基礎（博打ではなく数理に基づき収支均衡）をどのように考えるか象徴しているので、これを導入に議論を始め、続いて、期待値、大数の法則、分散などを、単純なモデルと少数のプーリングを使って易しく説明します。</p> <p>これらの概念について説明できる（I1, I2）</p> <p>③予習(120分)： 第4回の授業のテーマにかかわる小話（第3回でお題を出します）のオチを作り、事前に提出する。</p> <p>④復習(120分)： 期待値、大数の法則などの理解を確認する。</p>
5	<p>①授業テーマ： 様々な損害保険とその内容</p> <p>②授業概要： 第5回から第9回にかけて、様々な損害保険について、解説します。その初回として、生命保険、損害保険、第三分野の区別、損害保険における種目の区別、損害保険における基本的な用語（テクニカルターム）を理解し覚える(C1, D1)。第9回までの間、基本的な商品の内容の説明にとどまらず、講師の実務経験をもとに、具体的な引受上の論点や事故の実例を踏まえた解説を試みます。オムニバスの構成になります。第4回までに取り上げた原理や技術的基礎との関係にも触れながら、リスクの処理を考える(第10回以降のテーマ) ツールに使えるよう損害保険を理解することを目指します。</p> <p>なお、第4回までの内容について理解度を確認する小テストを行います。</p> <p>③予習(120分)： 損害保険の用語等について資料で確認する。</p> <p>④復習(120分)： 基本的な用語の定義と用法を確認し記憶する。</p>
6	<p>①授業テーマ： 交通事故のリスクと保険－自動車損害賠償責任保険（自賠償）</p> <p>②授業概要： 自動車の保有台数、事故の発生状況と推移、保険の普及などの基礎データを参照するとともに、自動車事故を起こした場合の損害と責任を把握する(I2)。</p> <p>自動車人身事故については「運行供用者」に厳格な責任が課され、その賠償資力を裏打ちするために自賠償が強制保険となっていることを知った上、自賠償に特有の制度の設えを理解し説明できる(C1, D1)。</p> <p>③予習(120分)： 交通事故を起こした場合の責任と自賠償の概要について資料で確認する。</p> <p>④復習(120分)： 交通事故を起こした場合の責任と自賠償の補償内容、機能、特徴について確認する。</p>
7	<p>①授業テーマ： 交通事故のリスクと保険－2（自動車保険・自転車保険）</p> <p>②授業概要： 自賠償が法律に基づき対人賠償事故のみを補償する保険であるのに対し、自動車保険は車両や対物賠償なども補償するという違いや人身傷害保険の機能を把握し説明できる（C1, D1）。また、賠償事故の示談代行やロードサービス、ドライブレコーダーによる自動通報など付随する機能を知っておく。</p> <p>自転車による事故、電動キックボードによる事故の責任と保険について補足します。また、自動車保険に関する基礎的知識を得たことを前提に、テレマティクス、高度運転支援システム、自動運転システムに関する論点を補足します。</p> <p>なお、第5回で解説した用語の定義、用法の理解度を確認する小テストを行います。</p> <p>③予習（120分） 自動車保険や自転車事故に備える保険の概要を資料で確認する。自動運転（自動走行）車両の概要を知っておく。</p> <p>④復習（120分） 自動車保険の補償内容や機能を確認する。</p>
8	<p>①授業テーマ： 住まいのリスクと保険（火災保険、地震保険）</p> <p>②授業概要： 火災や自然災害およびそれらに対する保険金支払いの推移、種目の保険料などの統計データを把握し、規模感と重要性を確認する(I1, I2, I3)。講師の実務経験を踏まえて、住まいのリスクに備える火災保険の概要、機能、地震保険の特徴とその仕組みについて解説します。</p> <p>火災や自然災害を補償する火災保険、地震保険の概要、役割を説明できるようになる</p>

	<p>(C1, D1)。</p> <p>③予習(120分)： 火災や自然災害を補償する火災保険の概要を資料で確認する。</p> <p>④復習(120分)： 火災保険や地震保険の役割を再確認する。</p>
9	<p>①授業テーマ： 企業のリスクと保険</p> <p>②授業概要： 講師の実務経験を踏まえて、企業の抱えるリスクを大まかに整理した上、対応する保険について概説の上、興味深い具体例をいくつか取り上げ、保険設計上の論点などを解説します。</p> <p>企業のリスクに対応する損害保険の概要、特徴を説明できるようになる (C1, D1, I1)。 なお、第6回から第8回の理解を確認する小テストを行います。</p> <p>③予習(120分)： 第2回と同様に、EDINETを使って企業が認識し、開示しているリスクを把握する。</p> <p>④復習(120分)： 企業のリスクに対応する損害保険の概要、特徴を確認する。</p>
10	<p>①授業テーマ： 再保険</p> <p>②授業概要： 講師の実務経験を踏まえて、保険会社から保険会社へのリスク移転の取引である再保険の仕組みを解説します。保険は均質で十分大きな保険集団を形成することで収支が安定しますが、これがかなわない場合の対応のひとつが再保険であり、その様々な取引形態を順を追って解説します。伝統的な再保険の基本的な取引形態、機能を説明できる(I1, I3)。</p> <p>③予習(120分)： 再保険の仕組みについて、資料で概要を把握する。</p> <p>④復習(120分)： 再保険に関する理解を確認する。</p>
11	<p>①授業テーマ： 巨大リスクとプール</p> <p>②授業概要： 講師の実務経験を踏まえて、巨大リスクを安定的に引受けるプールの仕組みを解説します。元受プール、再保険プール、国内にとどまらずグローバルに形成運営されているもの、民間のみならず政府も関与するものなど様々な形態があり、実例をもとに説明します。</p> <p>プールの大まかな仕組みと意義について説明できる(I1)。 なお、第9回、第10回の理解を確認する小テストを行います。</p> <p>③予習(120分)： プールの仕組みについて、資料で概要を確認する。</p> <p>④復習(120分)： プールに関する理解を確認する。</p>
12	<p>①授業テーマ： 企業のリスクファイナンスと保険</p> <p>②授業概要： 企業のリスクファイナンスの考え方について概説した上で、様々なリスクファイナンス手法を紹介し、保険による対応とそれ以外の対応について、特徴、メリデメなどを、講師の実務経験を踏まえて解説します。企業のリスクマネジメントにおいては、保険によるリスクファイナンスだけではなく、その他の手法も用いられており、それらについても概説します。</p> <p>リスクファイナンスの考え方について説明できる (I1)</p> <p>③予習(120分)： リスクマネジメントとリスクファイナンスについて資料で確認する。</p> <p>④復習(120分)： リスクファイナンスにおける保険とその他の手法について再確認する。</p>
13	<p>①授業テーマ： 保険と法令</p> <p>②授業概要： 保険業は免許業種であり、契約者(消費者)保護のため商品や販売が規制・監督に復しているとともに、財務健全性も監督を受けています。監督法のみならず、契約の権利義務関係も「保険法」による規整があります。講師の実務経験を踏まえて、保険に関するおもな法律について解説します。</p> <p>保険関係法規が契約者保護のためにどのような領域を規制監督し、契約の規整を定めているのか基本説明できる (C1, D1, I1) 。</p> <p>③予習(120分)： 保険に関係する主な法律の目的、概要を資料で確認する。</p> <p>④復習(120分)： 保険に関係する主な法律の特徴を再確認する。</p>
14	<p>①授業テーマ： ERMと保険経営</p> <p>②授業概要： 授業の最終盤に至り、保険経営そのものとも言うべきERMに触れることにします。保険事業はリスクを引き受けることで成り立ち、社会経済に貢献します。リスクをより多く安定的に引き受けられるために、リスクを定量化し、リスク選好に沿ってリスクテイクの最適化を図るサイクルを繰り返していきます。講師の実務経験を踏まえて、実際には複雑なプロセスですが、基本コンセプトを単純化したモデルで解説します。</p> <p>ERMのコンセプトの基本を説明できる(I1, I2)。</p> <p>③予習(120分)： 事前に掲示された簡単な設例によるドリルに回答 (計算) する。</p> <p>④復習(120分)： ERMのコンセプトを確認する。</p>
15	<p>①授業テーマ： まとめ</p> <p>②授業概要： 第1回で例示した「課題」 (15回の授業終了時において理解・説明できるようになってほしいこと) のひとつ (または複数) を示します。</p>

	<p>示されたテーマについて、10~20分程度で考えをまとめメモを作成する。指名された受講者は自分の考えを述べる（テストではなく、周辺と相談してまとめてもよい）（C1, D1, I1, I2, I3）。</p> <p>いくつかの発表を受けて講評・解説を行います。</p> <p>最後に、各回に関する者および総括的な質疑や論点の確認を行ってまとめとします。</p> <p>③予習(120分)： 第1回で例示された「課題」（15回の授業終了時において理解・説明できるようになってほしいこと）を検討する。</p> <p>④復習(120分)： 15回を振り返り、自らの理解を確認点検する。</p>
関連科目	RMGT3403 損害保険法
教科書	教科書は指定しない。授業ごとにパワーポイントの資料を用意し、授業の原則2日前までにポータルサイトに掲示する。
参考書・参考URL	<p>「基礎からわかる損害保険」中出、中林、平澤 監修 2018年6月 有斐閣</p> <p>「損害保険市場論（11訂版）」佐野、竹井、野口、小川、井口著 損害保険講座テキスト 2021年6月 損害保険事業総合研究所</p> <p>「図説損害保険ビジネス」（株）トムソンネット編 鈴木、岩本ほか著 2018年5月 金融財政事情研究会</p> <p>「保険ERM基礎講座」後藤著 2017年4月 保険毎日新聞社</p> <p>「ベーシックプラス リスクマネジメント」柳瀬、石坂、山崎著 2019年6月 中央経済社</p> <p>「CFO視点で考えるリスクファイナンス」加藤著 2018年10月 保険毎日新聞社</p>
連絡先・オフィスアワー	
研究比率	

